

1 収集保存事業

標本やデータ等の所蔵資料を分類・整理して適切な保存管理を行い、川崎市域の貴重な自然史資料・天文資料を次世代へ確実に継承します。
データベース化した所蔵資料の公開や、資料を使った講座の開催等により、所蔵資料の効果的な活用に努めます。

(1) 自然資料

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>● 収蔵資料のより効果的な活用</p> <p>● GBIF等国際機関への資料情報の提供</p> <p>● 研究機関への資料の貸し出しについて検討</p>	<p>① 収蔵資料の収集・分類・整理（台帳化）</p> <p>② GBIF等国内外機関への資料情報の提供</p>	<p>① 資料収集として剥製及び標本化を行い、哺乳類1点、鳥類18点、爬虫類1点、昆虫343点、植物472点、計835点を新規に作製した。また、電子台帳への登録について、昆虫標本は280点を登録し、そのうち新規作製標本が119点、植物標本は472点を登録し、すべて新規作製資料である。このほか寄贈資料の昆虫標本865点について目録を作成し、紀要第33号で公表した。【P8】</p> <p>② 地球規模生物多様性情報機構（GBIF）およびサイエンスミュージアムネット（S-Net）に植物の標本データ3,200点を提供した。【P8】</p>	<p>未整理資料を計画的に整理・登録するとともに、継続的に新たな資料を作成する必要がある。</p>	<p>● 収集資料の整理登録が順次進んでいることを認める。</p> <p>● 幅広い内容を少数で頑張っていると思います。寄贈された根岸コレクションをはじめ、膨大な数の資料を整理、登録について短期的にでも人員の増員の必要を感じます。</p> <p>● 未整理標本、新規作成標本、電子台帳化標本などのスキームについて、再検討が必要でないか。</p> <p>● 単純に数値の多寡のみで判断はできないが、年間の資料収集数として多いとは言えない。調査で緑地内を巡回していれば、対象以外も自ずと（外道的に）得られるのが通常で、僅かな機会を活かす思案や努力が払われているとは見えない。また、対象によっては、室内にいながらにして生物資料を得る手法も多い。目録作成やS-Netへの提供は、過去の職員による仕事（遺産）に拠っている部分が大きいのではないか。年報の調査研究事業（p.17）の市民団体への事業委託の中に標本の収集・作製も含まれているが、ここで挙げられた点数も、委託部分が判別できるように記載してほしい。</p> <p>● 紀要での公開が進められたことは良かった。</p> <p>● 紀要で公表したことは高く評価できる。</p> <p>● 標本作製、データ提供および公開など、資料収集と活用が着実に進められている点は評価できる。</p> <p>● 今後も計画的に整理・登録を継続してください。</p>
		<p>達成度：3</p>		
				<p>評価：B</p>

(2) 天文資料

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>● 収蔵資料のより効果的な活用と公開</p> <p>● プラネタリウム番組や解説資料のアーカイブスの作成</p>	<p>① プラネタリウム番組のアーカイブ化</p> <p>② 天文資料の整理保存</p>	<p>① 毎月実施しているプラネタリウム一般向け番組の制作時に収集した文献資料、画像等の資料を番組素材、番組スクリプト、等の関連データとともにアーカイブとして保存し、今後の番組制作等に活かせるようにした。【P8】</p> <p>② 天文学史資料の整理保管を継続して行い、富田資料についてはリスト化を完了し6,821点の資料を確認した。今後は目録の公開に向けて分類整理を進めていく。また、デジタルアーカイブの作成に向けて、古書等のデジタル化に着手した。</p> <p>天文資料のうち箕輪資料からアマチュア天文家の活動等の写真5点を茅野市八ヶ岳総合博物館と長野市立博物館の企画展に貸し出した。【P9】</p>	<p>資料の適切な分類整理と公開が今後の課題</p>	<p>● プラネタリウムの番組等をアーカイブできたことは大きな成果である。</p> <p>● 収集資料整理保存し、活用を検討したことを評価する。</p> <p>● 寄贈された富田資料の内容把握及び分類整理後の公開まで頑張ってくださいと思います。今までの番組制作時の資料も今後の再利用も考えられるので使いやすい保存法を望みます。</p> <p>● ①ではアーカイブとあるが、いかなるシステムで、いかに「活かせるようにした」のか依然として説明がない。②も依然としてリスト化とあるのみで目録化も達成されておらず、完結したものがない。なお、資料の貸し出しは収集保管事業ではない（例年、各事業の分類に関する指摘を繰り返しており、学芸全体で博物館事業について一から勉強し直されたい）。ただし、自己評価には記載がないが、太陽黒点観測における独自のデータについて当館の機関略号（KMM）の下に資料番号の付与を開始した点を評価し、上のランクとした。</p> <p>● リスト化の進展は心強い。</p> <p>● 今後の目録公開やデジタルアーカイブの作成に期待する。</p> <p>● 資料の有効活用を踏まえた上で、収集・アーカイブ・デジタル化を進めてもらいたい。</p> <p>● 資料の分類整理、デジタル化をすすめ、有効活用できるようにしてもらいたい。</p>
達成度：3			評価：B	

(3) 科学教育資料

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●科学実験教室に関するノウハウを整理・保管・共有化</p>	<p>①科学実験データ共有化</p>	<p>①サイエンス教室、サイエンスワークショップ他、館内科学系イベントの提供された計画書や報告書の管理とともに、市民団体が普及イベントを計画する際の参考資料として共有できるように、令和4年度サイエンスワークショップ実践事例集（64件）として冊子データにまとめた【P9】。館内展示やSNS活用を踏まえた動画データ収集の試行として、1月から科学工作物の動きを紹介する動画（数秒～10秒程度）を撮影し、Twitterにて3点活用した。</p> <p>達成度：3</p>	<p>館職員や市民による科学普及の実践データを公開する手法を検討し、科学ボランティアへの協力・周知を図る。</p>	<p>●データの共有化が進んでいることはおおきな成果である。 ●サイエンスワークショップ実践事例集として冊子データにまとめたことを評価する。 ●動画などの資料は今後も再利用が考えられるのでわかりやすい保存を望みます。 ●ただし、twitterでの活用は収集保存ではなく教育普及もしくは展示に当たる。 ●動画の公開を評価したい。 ●実践事例集の冊子化が評価できる。 ●実践事例集として活用されるように冊子データにまとめたことは評価できる。Twitterは情報が流れていくメディアなので、動画や映像資料はYoutubeなどにチャンネルを設けて、そこにアーカイブしていくと良いと思われる（Youtubeにupしたものを自動的にTwitterに投稿することは可能）。 ●冊子データにまとめた事例集を今後は有効活用にしてもらいたい。</p> <p>評価：B</p>

2 展示事業

地域の自然に親しみ、知識を深めることができるように、身近なフィールドである生田緑地や川崎の星空と連動した展示を行います。
 市民・利用者が最新の情報に触れられるよう、日々移りゆく自然の様子や最近の研究成果などを反映した展示の更新を行います。
 市民・利用者の疑問や興味関心にきめ細かく対応した展示解説を行い、自然や天文、科学技術等へのより深い理解と関心につなげます。

(1) 自然展示

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●リアルタイムな情報発信と標本等展示資料の定期的な入れ替えによって展示を更新するしくみを確立</p> <p>●展示と連動した自然ワークショップの実施など、体験型の展示の充実</p>	<p>①生田緑地の自然情報の発信</p> <p>②新たな自然史資料による常設展示の更新</p>	<p>①生田緑地の自然について、日常的に観察・撮影した写真等のリアルタイムな情報発信（受付横「緑地案内ボード（緑地マップ）」を活用）を定期的を実施し、2週に1回の頻度で更新した。また、SNSを活用し、自然情報や展示紹介など84回更新した。【P10】</p> <p>②生田緑地の動植物を季節ごとに展示する「生田緑地の四季だより」の写真をキャプションとともに4回更新し、計32点を展示した。また、自然分野サイエンスワークショップの題材等をピックアップコーナーにて展示し、適宜更新した。【P10】</p>	<p>自然情報を継続的に発信する必要がある。また、展示物の更新にむけて、更新案を検討し、展示物を作製する必要がある。</p>	<p>●リアルタイムでの情報発信は時代に即している。SNSの活用は今後も広げていく必要がある。</p> <p>●SNSによる84回更新したことはよかったと思う。</p> <p>●生田緑地の自然について、「生田緑地の四季だより」の写真等、リアルタイムな情報発信したことを評価する。</p> <p>●実際に触れることのできる展示に戻れたことが良かったと思います。今後も実体験できる自然の展示を期待しています。</p> <p>●ワークショップの題材以外は写真等の更新のようである。新たに作成した標本や既存標本の実物資料は更新する必要はないのか。</p> <p>●当館の常設展示の更新には制約が多いが、現在は移動ケースが導入されているので、アイデアと実践次第で多様な展示を行えるはずである。SNS上での展開は、（年間を通覧したのみの印象では）頻度は多いとはいえない。写真については画像解像度自体が著しく低いものも多いが、従前での指摘の通り、緑地内他施設での発信の仕方やクオリティを学ぶべきではないか。</p> <p>●着実な活動を続けている。</p> <p>●昆虫であれば、たとえばチョウ、トンボ、甲虫などのように特定のグループごとに展示するのも面白いのではないか。</p> <p>●R3年度から比べ、SNSを積極的に活用し情報発信していることは評価できる。生田緑地公式アカウントも自然情報を頻繁に発信しているようなので、それらをリツイートして、科学館としての情報を付加するなど連携して情報発信することも検討すると良いと思われる。</p> <p>●定期的に展示の更新ができています。</p>
		<p>達成度：3</p>		
				<p>評価：B</p>

(2) 天文展示

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>● 新型メガスター投影システムやアストロテラスと連携した新たな川崎方式の確立</p> <p>● プラネタリウムの番組やアストロテラスでの星空観察のプログラムと連動させた発展的な内容の展示の実現</p>	<p>① プラネタリウム一般向け番組制作・投影</p> <p>② プラネタリウム子ども向け番組制作・投影</p> <p>③ シニア向け投影「星空ゆうゆう散歩」実施</p> <p>④ 乳幼児向け投影「ベビー&キッズ」実施</p> <p>⑤ プラネタリウム学習投影</p> <p>⑥ 一般団体貸切利用</p> <p>⑦ 天文関連展示</p>	<p>① 毎月テーマを変えた一般向け番組を企画、制作し、定員の減、消毒、換気等、感染症対策をしながら投影を実施した。夏休み期間は誕生から99年となるプラネタリウムを取り上げ、企画展と連動した内容とした。【P10】</p> <p>② 土日、祝日等に子ども向け投影を実施。ブラックホールをテーマとした新番組を制作し、来年度から一般公開予定。【P11】</p> <p>③ ベテラン解説員である元職員が講師を務める「星空ゆうゆう散歩」を8月を除く毎月実施し、ほぼ毎日が満席となった。【P12】</p> <p>④ 乳幼児向けの「ベビー&キッズアワー」は今年度は中止した。今後、ウィズコロナに対応した実施方法を検討し、再開する。【P12】</p> <p>⑤ 小中学校等の団体利用を受入れ、各学年や利用する学校の希望に応じた学習投影を実施した。【P12】</p> <p>⑥ 一般団体による貸切利用が2件あり、プラネタリウム内での音楽演奏など、利用者の希望に合わせた投影を実施した。【P11】</p> <p>⑦ 誕生99年のプラネタリウムに関する企画展「プラネタリウムのひみつ」を開催し、8,986人の来場者があった。また、6月には小惑星リュウグウのサンプル（レプリカ）展示、10月にオーロラ写真パネル展を実施した。【P16】</p> <p>達成度：3</p>	<p>感染症の状況や生活様式を踏まえた適切な対策や実施方法が課題</p>	<p>● 毎月テーマを変えてのプラネタリウム上映は評価に値する。生解説は誇れるものである。継続を臨む。</p> <p>● 感染症対策を踏まえた上で、土日の子ども向け投影を実施したことは評価できる。</p> <p>● 毎月テーマを変えた一般向け投影や小中学校等の各学年や利用する学校の希望に応じた学習投影を実施した点を評価する。また、プラネタリウムを団体で貸切り、投影を楽しむことができる「星空自由空間」を実施できたことを大いに評価する。</p> <p>● 今年はコロナの影響で定員が減り動員数が減ったのは残念でした。プラネタリウムは科学館の顔でもあるので今後もオリジナリティのある企画、展示を期待しています。</p> <p>● プラネタリウム100周年に向けての展示を評価する。また、貸切利用での投影の取組も特記に値する。</p> <p>● (展示を子細に確認しなかったのですが)「星を見るタベ」につながる、季節ごとの星座の見つけ方ポイントのような展示は行っているでしょうか。プラネタリウム以外で展示を行えば、子どもも大人も関心をもつと思うのですが。</p> <p>● 感染対策をした上で多くの投影が実施でき、たくさんの来場者に機会を提供できたことは高く評価できる。乳幼児向けの「ベビー&キッズアワー」は、社会状況を鑑みても再開に問題はないと考えられるので、早期の再開を期待する。</p> <p>● コロナ感染症の規制緩和が進む中感染対策に留意して、投影回数、定員増加やベビー&キッズの再開を望む。</p> <p>評価：B</p>

* アストロテラス： 市民が集い、スタッフと参加者が同じ星空を共有し、星空の美しさと宇宙の神秘を体験するための、観測機材を備えた天体観望用の施設

(3) 科学展示

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●実験・観察の方法や成果を発信する展示による体験学習の充実</p> <p>●21世紀子どもサイエンス事業で活用している「ワクワクドキドキ玉手箱」（以下「玉手箱」）の紹介</p>	<p>①科学工作物展示</p>	<p>①教育普及イベントにおいて制作した工作物の原理や作り方を紹介する常設展示コーナーの内容のうち、6点中3点を更新した。令和2・3年度に続き、展示の手法として多摩区と連携したARコンテンツ（拡張現実）を活用し、工作物の動画を4点掲出し、令和4年度は285回の来館者利用があった。【P17】</p> <p>達成度：3</p>	<p>科学工作を紹介する動画を制作し、館内視聴できる環境づくりに取り組む必要がある。</p>	<p>●常設展示の更新は評価できる。</p> <p>●工作物の原理や作り方を紹介する常設展示コーナーは来館者も興味を持って見ている。</p> <p>●ARコンテンツは子供の興味も引くものだと考えるので、今後も新しい内容の更新を望みます。「玉手箱」の紹介も前面に出して具体的な内容も紹介していただきたいです。</p> <p>●ARコンテンツの波及効果を記してほしい。</p> <p>●工作物の実物とARによる展示は評価できる。作り方などはネット上にPDFを置いておいて、ユーザがダウンロードできるようにすると良いと思われる。</p> <p>●引き続き来館者利用が増加するよう更新回数や増加や視聴環境の整備を望む。</p> <p>評価：B</p>

* 21世紀子どもサイエンス事業： 川崎市で活動する民間団体・産業・学校と科学館が連携し、理科の好きな子どもや、科学に明るい市民を育てていく事業

* ワクワクドキドキ玉手箱： 市民に科学の楽しさを伝えるための実験・観察の手引きや道具が詰まったツール

3 調査研究事業

川崎市は、東京都と横浜市に挟まれた南北に細長い地形であり、東京都との間には多摩川が流れています。市の北部では武蔵野の面影を残すような雑木林があり、自然が多く残っている地域と、南部の工場地帯をはじめとして都市化が進んだ地域があります。

このように、自然と都市の要素を包含する川崎市において、自然と人間の共存を考えるうえでの重要な要件を見だし、考察を深めることを目的として、学芸担当職員を中心に自然環境の調査や川崎で見られる天体の調査を行います。

また、科学教育を効果的に推進するために必要な調査研究を行います。

(1) 自然分野

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●調査テーマの設定や発表方法の検討</p> <p>●職員と調査ボランティア、研究機関、自然調査研究団体等多様な主体との協働による調査の実施</p> <p>●既存調査の継続と調査対象の拡大の検討</p> <p>●学芸担当職員の専門性を活かした調査研究活動を通じて、地域の自然を継続的に調査・分析し、研究成果を公開</p> <p>●職員の専門性を高め、展示や学習プログラム等の博物館活動に反映</p>	<p>①ムネアカハラビロカマキリ調査</p> <p>②市域の生物調査</p>	<p>①生田緑地の外来生物調査として、外来種のムネアカハラビロカマキリと在来種のハラビロカマキリの生息状況を調査し、調査結果をまとめ、両種の置き換わり状況、外来種の生田緑地内での分布拡大や幼虫期での捕獲による外来種の個体数減少について紀要第33号で公表した。【P17】</p> <p>②市域の生物調査では、自然系市民団体への委託事業として、生田緑地を中心に川崎市域に生息する動植物種の確認調査を実施し、これまでの採集状況を踏まえながら採集が可能な動植物については採集し、それらに適した方法により標本作製した。また継続的なモニタリングが可能な分類群については、モニタリング調査を継続した。【P17】</p>	<p>①調査研究成果の向上を図るため、調査結果を踏まえ、調査を継続するとともに、新たな調査に向けて対象を選定する必要がある。</p> <p>②今後、調査結果について市民への適正な還元方法を検討する必要がある。</p>	<p>●外来種のムネアカハラビロカマキリと在来種のハラビロカマキリの生息状況を調査しまとめ、結果を紀要に公表したことを評価する。</p> <p>●自然は幅広い内容ですが、是非青少年科学館ならではの調査、研究を期待しています。</p> <p>●②について、「採集」は資料の収集であり、調査研究ではない。モニタリング調査は継続しているようであるが、その結果なり経過なりの記述がなく、評価できない。</p> <p>●①は、紀要暫定版では論拠や論理構成などの内容自体に難が多いため、やはり専門分野（統計的手法なども含めた）の外部研究者の査読を受けるべきである。また、ただ一つの主題に費やすリソースが偏重していれば、テーマ展開の可能性（あるいは、他事業も含めて）など、自ずと制約されているのではないか。②など、外部委託あるいは職員共著の報文も同様で、学芸員による指導や監修が行き届いているとはいえない（ネットワーク事業の（2）とも関連する）。</p> <p>●新たな対象についての言及が欲しい。</p> <p>●ムネアカハラビロカマキリに関する紀要での発表は評価できる。他の昆虫種（チョウならムラサキツバメ、甲虫ならアオドウガネとドウガネブイブイなど）で変化を調査しても面白いのではないか。</p> <p>●変化を捉えるためには継続的な調査が欠かせないことは理解できる。個体数の増減だけでなく、外来種と在来種が置き換わることによる自然環境への影響など関係性が明らかになることを期待する。</p>
		達成度：3	評価：B	

(2) 天文分野

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●調査の成果の蓄積と市民・利用者への還元</p> <p>●ときどきの天文現象に合わせた調査を実施し、プラネタリウム番組に反映</p> <p>●学芸担当職員の専門性を活かした調査研究活動を通じて、市域でみられる天体を継続的に観測</p> <p>●職員の専門性を高め、プラネタリウムや展示・学習プログラム等の博物館活動に反映</p>	<p>①川崎市域の星の見え方調査</p> <p>②天体の観測</p>	<p>①夏季と冬季にデジカメを使った市民参加による市内での星の見え方調査を行った。夏はより多くの市民が関心を持ち、参加できるように、昨年度から肉眼での観察を新たに取り入れ、ひとつの星座で1~5等星が確認できるはくちょう座の観察を実施し、31件のデータが集まった。</p> <p>また、11月の皆既月食の際に月の色の観察を市民参加で行い、200件の報告が集まった。【P17】</p> <p>②月食、天王星食の写真撮影による経過の記録、惑星の写真撮影などを行った。また、太陽表面の観測を継続して行い、観測データの解析を行った。</p> <p>明治大学との共同による系外惑星のトランジット観測を行い、解析を進めている。【P18】</p> <p>達成度：3</p>	<p>より多くの市民が参画できる調査手法と告知が課題</p>	<p>●今後もより多くの市民が関心を持ち参加できるような調査を行ってください。</p> <p>●市民の参加も多く、関心の多い分野だと思います。総合的な研究の発展を望みます。</p> <p>●②は解析中との記述があるが、①は、研究成果については、具体的な記述がなく、評価できない。</p> <p>●①では「データが集まった」とあるが、報文の形で完結していないのであれば、本枠に本年度の実績として記載すべきではない。②もまた、撮影や観測を行なったのみであれば、①と同じ理由で本枠に実績として記載すべきではない。紀要暫定版の目次によれば、太陽黒点観測の成果が見込まれているが、それ以外では、①、②ともに本年度の成果物はないことになる。</p> <p>●市民参加の観察結果を広く知ってもらえるよう工夫をお願いします。</p> <p>●星の見え方調査は面白い。</p> <p>●より多くの市民が楽しく参加できるような取り組みを期待する。</p> <p>●より多くの市民が楽しんで参加できるような調査方法と告知方法を検討してほしい。</p> <p>評価：B</p>

(3) 科学教育

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●研究成果を蓄積し、21世紀子どもサイエンス事業を中心とした科学教育普及事業へ反映</p>	<p>①玉手箱の改良・新規開発</p>	<p>①学校現場での授業活用をねらい、ワクワクドキドキ玉手箱のテーマの中から、飛ぶタネの仕組みや種の保存、植物の多様性について体験を通じて学ぶキットのブラッシュアップを行った。9月のサイエンスワークショップ、11月の学校支援の場面に改良した教材の試行、検証を行い、効果や課題については紀要第33号にまとめた。【P18】</p>	<p>実物資料を活用した教材キットの充実を図るため、植物資料の採集を進める。 かわさきGIGAスクール構想による学校支援につながるよう科学館のもつ実物資料と連動したデジタル教材を開発する必要がある。</p>	<p>●今後もGIGA端末を通しての学校との連携について模索していく必要性を感じる。 ●今後も学校の教育現場で活用できるキットの開発研究を望む ●利用しやすい玉手箱のより一層の改良を望みます。 ●科学分野は、オリジナルな研究ではなく既存の「科学実験」が主体となるその特性から、調査研究事業にそぐわない面も多いが、教材や主催事業の検証論文という形で後の世代に寄与された面を評価する。 ●デジタル教材の発展に期待する。 ●利用者のフィードバックをふまえ、引く続きキットのブラッシュアップ及び内容の充実を図ってほしい。 ●GIGAに対応できる教材デジタル化をすすめてほしい。</p>
		<p>達成度：3</p>		
				<p>評価：B</p>

4 教育普及事業

展示を活用した学習プログラムやフィールドワーク、実験等、体感・体験できる講座を提供し、実体験に基づいた生きた知恵を育てます。

(1) 自然体験

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●より多くの市民・利用者が生田緑地の自然に関心を持てるような、多様な内容・形態の観察会や自然教室を実施</p> <p>●活動フィールドを拡大し、多摩川水系をフィールドとした自然教室を開催</p> <p>●展示解説やワークショップ等を通じて、市民の交流と学び合いを実現</p> <p>●バックヤードツアーや一日学芸員体験等、解説やワークショップメニューの内容を深める</p> <p>●フィールドワークの学習効果を高める学校支援プログラムを開発・運用</p> <p>●ボランティア制度導入についての検討</p>	<p>①生田緑地観察会</p> <p>②サイエンス教室（自然分野）</p> <p>③自然観察（地層・林）</p> <p>④総合的な学習の時間支援</p>	<p>①生田緑地を会場に、種子植物、シダ植物、野鳥、昆虫、地層などをテーマに、現地で見られた動植物や自然環境について講師が解説することで、参加者の興味関心を持つきっかけとなる観察会を計15回を実施し、参加者は延べ156人であった。あと3回実施予定。【P19】</p> <p>②来館者を対象に、動植物や自然環境に対する興味関心を深められるよう、座学と観察会で学ぶ教室や、より深く自然を理解するための連続講座、博物館の役割を知らせるバックヤードツアー等、計6回を実施し、参加者は延べ91人であった。あと1回実施予定。自然分野のサイエンスワークショップは計8回を実施し、参加者は延べ254人であった。あと1回実施予定。【P20】</p> <p>新たな取組として、川崎の自然の魅力を感じてもらえる機会になるよう、これまでに市民協働で実施してきた川崎市域の生物調査について、調査の委託先である自然系市民団体が発表者となり成果を来館者に伝える成果発表会を開催した。【P21】</p> <p>③地層観察では、生田緑地で地層の成り立ちについて学習するプログラムを、計26回、延べ2,566人に対して実施した。また、教員の観察コースの事前下見・相談への対応、教員の事前学習、生田緑地での観察が困難な学校向けに地層の写真や地層サンプルをまとめた学習キットの貸出しを行い、市内学校10校が利用した。林の観察では、生田緑地の樹林における季節ごとの動植物の観察を理科の学習の一環として、計4回、延べ300人に対して実施した。【P22】</p> <p>④生田緑地の自然をテーマに、総合的な学習の時間として課題解決学習の支援を計1回、延べ112人に対して実施した。【P22】</p>	<p>野外活動において、夏季では熱中症対策を踏まえ対応する必要がある。</p>	<p>●生田緑地の貴重性を市民に浸透させていく意味でも、様々な分野での観察会の実施は大切であると考えている。コロナ禍の中で実施は苦勞も多いと思われるが、回数、参加者とともに評価できる数字であると思う。</p> <p>●観察会やサイエンス教室等の体験活動を展開したことは評価できる。地層観察のプログラム等、今後も継続してほしい。</p> <p>●生田緑地観察会、サイエンス教室、地層観察等を実施したことを大いに評価する。</p> <p>●自然体験に関しては気候も絡んでくるので大変な事業だと思っています。来館者に期待を持ってもらえるプログラムを期待しています。</p> <p>●コロナ禍の中での各事業の展開は評価できる。ただ、経年比較も必要ではないか。また、参加人数や開催回数だけでなく、満足度のような、評価軸の導入も必要ではないか。</p> <p>●事業委託分を差し引けば、市職員（学芸）が自主的に企画立案している部分は少ない。新たな試みでの事業も、専門学芸員あるいは自然担当の自主的な活動に拠らずして市民団体に頼っており、学芸員による収集保管および調査研究事業成果に発した教育普及事業（いわゆる「三本柱」の循環）をまず目指すべきではないか。新たな取組（年報暫定版では②とは別項目）によれば、当館では「協働＝委託」と考えていると受け取れるがそれで宜しいか？</p> <p>●新たな取り組みもあり、活発な活動が見られる。</p> <p>●さまざまな企画は高く評価できる。ただ、生物関連の観察会でもう少し参加人数が増えてくれればと思う。</p> <p>●観察会やサイエンス教室が着実に実施できたことは評価できる。</p> <p>●コロナ感染症の規制緩和に伴い、参加者や来館学校の増加が予想されるので、引き続き感染対策に留意して、継続的に実施してほしい。</p>
達成度：3			評価：B	

(2) 天文体験

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●教員や児童生徒が自らプラネタリウムの学習番組を制作・投影できるプログラムの実現</p> <p>●専門家による講演や市民参加型の講座の開催等を通じて、市民の学習・交流事業を継続・発展</p> <p>●プラネタリウムの星空演出と、より多彩な芸術との融合の実現を目指した、連携先の開拓や演出手法の開発</p> <p>●星空を身近に感じ、広く宇宙に親しむことのできる事業の展開・充実</p> <p>●科学館の調査研究成果の天文学習への活用</p> <p>●プラネタリウム番組制作ソフトを市内全小中高等学校に配布し、プラネタリウム番組制作を支援</p> <p>●プラネタリウムを児童生徒が制作した番組を発表できる場として活用</p> <p>●ボランティアのスキルアップや、活動内容のステップアップを支援</p>	<p>①アストロテラス公開</p> <p>②星を見るタベ</p> <p>③特別観望会</p> <p>④プラネタリウムワークショップ</p> <p>⑤天文講演会</p> <p>⑥天文サポーター研修会</p> <p>⑦プラネタリウムイベント投影</p> <p>⑧かわさき星空ウォッチング</p> <p>⑨サイエンス教室（天文分野）</p>	<p>①昼間のアストロテラス公開は密集を避けるため平日のみ、モニタ上での太陽観察を実施した。休日の一般公開として新たに「昼間の星を見る会」を1月29日から2回実施、年度内にあと3回実施予定。【P25】</p> <p>②夜間の天体観望会である「星を見るタベ」は事前募集により年間で23回実施し年度内にあと3回実施予定。密集を避けるための定員の制限や接触感染防止のためのフィルターを使って観察するなど、感染症対策を徹底して実施した。実際の観察ができない場合もプラネタリウムでの解説を実施し、今年度からはプラネタリウム内で双眼鏡を使って観察するなど、天候不良等でも楽しめるように実施した。【P22】</p> <p>③特別観望会としての実施の計画はなかったが、SNS等を活用し皆既月食の普及啓発や観察キャンペーンを実施した。また、科学館での観測の様子をSNSで発信を行った。</p> <p>④小学生を対象に年間を通じた連続講座「プラネタリウムワークショップ」を開催し、プラネタリウムの操作体験や番組制作を通じて天文学への知識を深め、関心を高めた。発表会を参加者の家族向けに実施した。【P26】</p> <p>⑤プラネタリウムを活用した外部講師による天文講演会を実施した。参加者数は63人。【P25】</p> <p>⑥「星を見るタベ」等を協働で実施する天文サポーターの資質向上のため定期的に研修を実施し、学習会、天体観測の実習などを行った。他、星を見るタベ参加者への配布資料の作成を毎月行い、天体観望会を充実させた。また、新規の天文サポーターを育成するための研修会を実施8人が参加した。【P24】</p> <p>⑦東京交響楽団とのコラボレーションによるプラネタリウムコンサートと、ドーム映像を活用したオーロラ上映会を開催し多くの方が来場した。アンケートからはいずれも高い満足度が得られた。【P25】</p> <p>⑧学校等の依頼を受けてアストロカーによる出張観望会を年間で12回実施し、延べ1,685人が参加した。主催者に感染症対策への協力をお願いした上で対応した。【P23】</p> <p>⑨日時計の工作や夜間の天体観察など天文分野のサイエンス教室を開催した。またプラネタリウム誕生99年に関連し、新たにプラネタリウムバックヤードツアーを実施した。天文分野のサイエンス教室は年間で8回開催、延べ55人が参加した。【P24】</p>	<p>感染症の状況や生活様式の変化への適切な対応とSNS等オンラインの教育普及事業の充実が課題</p>	<p>●かわさき星空ウォッチングについて、コロナ禍としては回数を行ってきているという印象である。この取り組みの知名度が上がってきていることを物語っていると思う。来年度は依頼回数が増えていくことが予想されるが、素晴らしい取組みなのでできる限り答えていきたいと思う。</p> <p>東京交響楽団とのコラボレーションは、利用者の裾野を広げる意味で大変評価できる取り組みである。</p> <p>●魅力的なプログラムを多く実施できたことは評価できる。広く発信し、多くの人に参加してもらいたい。</p> <p>●天体観望等を通して星空や天文学への関心を深めるためのサイエンス教室、プラネタリウムワークショップ等を実施したことを評価する</p> <p>●天体観測は夜間と天候となかなか難しい運営だと思えます。サポーターの育成、プラネタリウムでのコラボコンサートなど新しい教育企画の発展を望みます。</p> <p>●コロナ禍での制限要因が多い中での実施を上記の評価とした。ただ、経年比較も必要ではないか。また、参加回数や開催回数だけでなく、満足度のような、評価軸の導入も必要ではないか。</p> <p>●職員体制の中で可能な差配をされるとよいが、劣後している他事業の推進を勘案すれば、当事業の分量には再考の余地があるかもしれない。また、対象が天体との特性から、地域性の出し難さが考えられる。この点で、県下あるいは近隣他館では各々の存在意義を高める活動や発信が窺えるが、当館でも、川崎にプラネタリウムがあるべき意義について改めて再考されるとよい。</p> <p>●荒天時の対応（プラネタリウムで双眼鏡を使う）がたいへんユニークで、評価したい。</p> <p>●「星を見るタベ」は、特に春と秋の夜空が難しいので、子供たちによくわかるように説明してほしい。参加していないのでよくわからないのですが、ギリシャ神話などから話をされるのでしょうか。また、プラネタリウムコンサートは非常に良い企画なので、今後も実施してほしい。</p> <p>●様々な対策や工夫を施して体験が実施されている。引き続きオンライン等の活用も含め、充実した天文体験ができるプログラムを企画・実施を望む。</p> <p>●天候不良等でも楽しめるなど工夫が感じられる。さらなる活動の工夫に期待する。</p>
		<p>達成度：3</p>		<p>評価：A</p>

*アストロカー： 当館が所有する移動天文車の愛称。望遠鏡、ディスプレイモニター等を搭載し、市内学校等で観望会を行う。

(3) 科学体験

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●多様な年齢層に向けた科学教室の開催 ●気軽に楽しめるサイエンスショーや、年齢や学習段階の異なる人々が共に学べる交流・学習イベントの実現 ●玉手箱や科学ボランティアを活用して、理科の好きな子どもや科学に明るい市民を支援 ●科学ボランティアの活動を支援 ●民産学官の連携を強化し、多様な人々の出会いと交流を生み出す科学イベントを開催 ●教材開発や学習支援プログラムの開発 ●ボランティアのスキルアップや、活動内容のステップアップを支援</p>	<p>①ワクワクドキドキ玉手箱・出前科学実験教室 ②サイエンス教室（科学分野） ③サイエンスワークショップ（サイエンスショー）を含む ④かわさきサイエンスチャレンジ ⑤科学サポーター研修会 ⑥子ども創意くふう教室 ⑦出前教室 ⑧ゆうゆう広場科学実験教室</p>	<p>①実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」を活用した出前科学実験教室を委託先の科学市民団体との協働にて実施した。37回実施し、計991人が利用した。【P30】。</p> <p>②③小学生から大人まで、様々な年代を対象とした科学分野のサイエンス教室を年間34回【P26】、サイエンスワークショップを64回【P28】開催し、参加者数は累計約2,600人を超えた。多くの科学講座は、市民団体との協働で運営した。 各科学講座（サイエンス教室・サイエンスワークショップ等）は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を継続し、定員数を上限の半数程度にて開催した。参加者同士や講師との距離の確保、整理券による入替制など、安全対策を徹底した上で実施した。</p> <p>④「かわさきサイエンスチャレンジ」では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を運営委員会にて検討し、開催準備を進めた。8月6・7日の2日間で計250名の小学生と保護者が科学館主催のワークショップに参加した。【P30】</p> <p>⑤「科学サポーター研修会」は、館内イベントを活用した実践的な研修会を計画し、開催した。令和4年度は研修会から6名の修了生を輩出することができた。【P31】</p> <p>⑥小中学生を対象とした連続講座として12月から1月にかけて5回シリーズにて開催し、延べ58人が参加した。【P29】</p> <p>⑦出前教室の依頼が、自然分野・天文分野の学芸職員に3件あり、市内中学校（24名参加）、高等学校（32名参加）、かわさき市民アカデミー（19名参加）で出張講話を実施した。【P31】</p> <p>⑧川崎市適応指導教室との連携による科学実験教室を年間24回開催した。【P32】</p> <p>達成度：3</p>	<p>市民協働の教育普及事業を継続し、今日的な課題として環境教育に関連したテーマの選択など、新しい実践に取り組む必要がある。</p>	<p>●科学の面白さを伝え広げていく活動として、価値の高いものである。科学実験の内容など、時代に即したものとなるよう精査し今後も継続していただきたい。 ●感染症に配慮しながら、多くのワークショップや実験教室を実施できたことは評価できる。 ●多くの各種実験教室やワークショップを行い教育普及に努めたことを認める ●「ワクワクドキドキ玉手箱」を今年はもっと利用できるよう期待しております。館内だけでなく出張授業の折にも化学ボランティアの方たちも利用でき、科学について子供たちが楽しみながら興味を持てるようになることを望みます。 ●他の事業同様、経年比較も必要ではないか。また、参加人数や開催回数だけでなく、満足度のような、評価軸の導入も必要ではないか。 ●多数の事業を着実に実施している。 ●意欲的な活動を評価する。 ●ワークショップ、講座、実験教室を着実に実施できたことは評価できる。また、実験キットの貸し出しなど、引き続き科学館のリソースを利活用できるように施策を進めてもらいたい。 ●引き続き、子どもたちが科学に触れる機会をたくさん作ってほしい。</p> <p>評価：B</p>

5 ネットワーク事業

生田緑地内の文化施設をはじめとする多様な団体や関係機関との連携により、市民・利用者にとって魅力的な活動を幅広く展開します。多様な団

(1) 展示・企画

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●市民や研究機関・企業との共同企画展の開催等、パートナーシップによる事業を実施</p>	<p>①プチロボで競争しよう ②神奈川リレー科学実験教室 ③FIELD MUSEUM展 ④川崎市臨海部企画展示 ⑤天文市民団体との共催事業</p>	<p>①②神奈川県立青少年センターと協働し、「プチロボで競争しよう川崎大会（14名）」「かながわりレー科学教室（11名）」をそれぞれ9月に開催した。【P34】</p> <p>③専修大学ネットワーク情報学部コンテンツデザインプログラムを専攻する学生と協働し、新型コロナウイルス感染症に対応した形で「FIELD MUSEUM展：親子で楽しく学べるカガクおもちゃのデザイン展」を開催した。学生主体による8つのワークショップを屋内外で展開し、当日は約100名の来館者が参加した。【P34】</p> <p>④川崎市臨海本部事業推進部との連携による展示事業として、企画展「なるほど！ザ・川崎臨海部」を11月に開催した。プラネタリウムドーム壁面でのパネル展示、週末・祝日に学習室を活用した展示会等の運営方法や広報について検討し、4週間の開催期間で約4400名の来館者が利用した。【P34】</p> <p>⑤川崎天文同好会との共催による講演会を1回実施し43人が参加した。多摩天文グループとの共催による写真展をプラネタリウムドーム壁面を利用して実施した。</p> <p>達成度：3</p>	<p>連携する中で、さらに利用者増となる広報等の周知につながる取組が必要である。</p>	<p>●市民や教育団体とのパートナーシップのもと事業を展開していることは評価できる。さらなる周知をお願いしたい。 ●新しい企画を行ったことは評価するが、参加人数が少ないものもあり、検討を要する。 ●コロナでなかなか外部との連携が難しい時期でしたが機会を見つけて広げられたと思います。次年度はもう少し展開を広げると期待しています。 ●連携先を広く求めていけるようにするための方策も考えていってほしい。 ●分野によっては、もう少し参加者が増えてくれればと思う。 ●連携先と科学館の双方にメリットがある形での協働を模索できると良いと思われる。</p> <p>評価：B</p>

(2) 調査研究・収集保存

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●各団体や機関が保有する資料の相互提供や情報共有の仕組みづくり</p>	<p>①川崎市域の生物調査</p>	<p>①これまでの調査結果をまとめ、「特定非営利活動法人かわさき自然調査団」と協働で「多摩川登戸周辺の植物相」及び「川崎市生田緑地の鳥類調査」について紀要第33号で公表した。また、調査研究では、神奈川県立生命の星・地球博物館の昆虫を専門とする学芸員に調査段階から原稿内容の精査まで包括的にご助言をいただき調査結果をまとめ、紀要第33号で公表した。神奈川県立生命の星・地球博物館や箱根ジオミュージアムの地質を専門とする学芸員等にご助言をいただき、当館の地質分野の教材への掲載内容や収蔵資料状況の確認作業を進めた。【P35】</p> <p>達成度：3</p>	<p>他の博物館等と連携し、それぞれが持つ専門性を活かした事業の推進が必要である。</p>	<p>●各調査結果をまとめ紀要に公表したことを評価する。 ●これまでの調査結果のまとめですが、紀要をホームページ上で一般の方が見たりは出来ないのでしょうか？せっかくの価値ある資料なのでより広い公開を望みます。 ●当館の専門性の低さ、カバーできる分野の僅少さに鑑みて、外部専門家による指導の開始を一步の前進と捉えた評価とした。ただし、連携名目の調査では、連名または共著とするだけの調査を担ったのが明らかではない（原稿の校閲や点検のみであれば、内容に責任を担える立場ではないので、安易に共著に入るべきではない）。 ●連携が進んだことは評価したい。 ●引き続き調査が進展することを期待する。 ●市民調査団体、他博物館と連携協力して進められ、紀要にまとめられたことは評価できる。</p> <p>評価：B</p>

(3) 学習支援

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●教職員、ボランティア団体、科学館の協働により学習プログラムを開発・実施する体制の構築</p>	<p>①職場体験・職業インタビューの実施</p> <p>②中学校連合文化祭開催への協力</p> <p>③教員・職員等研修の受入れ</p> <p>④川崎市小・中学校理科優秀作品展</p>	<p>①職場体験では、県立高校インターンシップ4名、市内中学校6校20名を受け入れた。参加した生徒による常設展示のポップ作りなど、来館者へ発信する体験学習に取り組んだ。【P35】</p> <p>②川崎市中学校連合文化祭理科部門は、今年度の北部会場として協力した。プラネタリウム鑑賞、研究発表・表彰式への協力をを行い、当日は80名の生徒・教員が参加した。【P35】</p> <p>③川崎市総合教育センターとの共催で臨地研修会（19名参加）や横浜国立大学との現職教員CST養成講座（11名）をそれぞれ12月に実施した。市職員向け研修では、10月に社会教育職員研修として5名を受入れ、施設概要や業務について解説を行った。また、2週間の博物館実習を実施し、10名の大学生を受け入れた。【P36】</p> <p>④コロナ禍で2年ぶりの開催となった市内小学校の科学作品展と連携した「川崎市小学校理科優秀作品展」を12月に、中学校理科部会と連携した「川崎市中学校理科優秀作品展」を1月に開催した。館内壁面を利用し、小学校7作品、中学校9作品の自由研究作品を展示した。【P36】</p>	<p>科学館で開発・検証している学校支援の教材の周知を図る場として、さらなる活用を検討する。</p>	<p>●キャリア教育は今後もさらに進めていただきたい。川崎市小学校科学作品展の優秀作品の展示は、科学の裾野を広げていくことに大きく貢献している。</p> <p>●今後も教員たちへの学習支援の研修に努力してください。</p> <p>●コロナで受け入れ人数が少なかったと思います。次年度は出張講習の機会などの増えることを望みます。</p> <p>●教員や生徒に親しまれている様子が見える。</p> <p>●職員研修やインターンシップ、博物館実習棟での受け入れ先として、当施設が重要な役割を果たしていることがうかがえる結果である。</p> <p>●研修会、インターンシップ、実習などの機会を設けることができたことは評価できる。</p>
		達成度：3		
				評価：B

(4) 地域振興・生田緑地内

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●地域の団体が生田緑地を活用して企画・実施する事業を支援</p> <p>●生田緑地の自然等に関する知識や科学館のノウハウを活かした専門的な支援を実施</p> <p>●生田緑地内施設間における情報共有化による、運営の効率化</p> <p>●広報媒体の共同利用や共通情報のデータベース化等、広報活動の連携</p>	<p>①図書館、区役所等との共催事業の実施</p> <p>②大学、地域団体との共催事業の実施</p> <p>③生田緑地サマーミュージアムの実施</p> <p>④日本民家園との「七夕」「お月見」事業等、生田緑地内施設との共催事業の実施</p> <p>⑤生田緑地内施設及び指定管理者との広報活動の推進、各施設の回遊性の向上</p>	<p>①多摩図書館と連携したプラネタリウムでのお話し会を実施し、82人が参加した。多摩区民祭では市民団体による特別投影を実施した。【P37】</p> <p>②多摩区制50周年企画として田園調布学園大学主催の連続講座のうち1回を科学館で実施した。「星空から感じる共に生きる世界観」をテーマに講話とプラネタリウムの見学を行った。【P38】</p> <p>③例年夏に指定管理者と生田緑地内3館等が連携し、それぞれの魅力を活かした事業を展開するサマーミュージアムは熱中症予防等の観点により中止となったが、9月に十五夜フェスタを実施し、お月見プラネタリウムとして、中秋の名月について子どもから大人まで観覧いただける番組を投影した。【P37】</p> <p>④日本民家園との連携事業として7月に七夕体験を実施し、科学館ではプラネタリウムでの子ども向け七夕投影、短冊の配布、民家園では飾りつけ体験とミニ笹配布を実施した。また、「お月見」では共同制作による動画の公開、両施設学芸職員による民家園でのお月見トーク、夜間のお月見プラネタリウムを実施した。【P37】</p> <p>⑤各館の広報担当者による定期的な広報会議において情報共有を図り、当館及び生田緑地全体の魅力向上及び情報発信を行った。回遊性向上については、子どもたちの夏休みに合わせ、生田緑地内施設3館、藤子・F・不二夫ミュージアム、多摩区行政サービスコーナーと連携しスタンプラリーを実施した。【P38】</p> <p>達成度：3</p>	<p>緑地内の回遊性や地域の活性化のため、緊密な連携により各々の特徴をより活かした事業の推進が必要である。</p>	<p>●生田緑地内にある施設との連携は評価できる。改修が終わる岡本太郎美術館との連携を含めさらに進めていただきたい。</p> <p>●多摩図書館や生田緑地の民家園と共催してプラネタリウムを活用したことを認める。</p> <p>●生田緑地内の民家園、藤子・F・不二夫ミュージアムなどの連携はとてもよかったと思います。岡本太郎美術館などもそばなので連携できるとより一層広がりが出るとは思います。</p> <p>●文化的な連携と回遊性向上を評価したい。</p> <p>●今後も当施設が地域振興において重要な役割を担うことを期待する。</p> <p>●引き続き地域や緑地内の機関との連携を模索して、緑地全体として魅力を高めていただきたい。</p> <p>●withコロナが進む中、緑地内や近隣施設との連携イベントを工夫して集客力を高めてほしい。</p> <p>評価：B</p>

6 管理運営
運営方針

(1) 管理業務

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●指定管理者との連携による効率的、効果的な施設運営の推進</p> <p>●開館時間の弾力的な運用の実施</p> <p>●館の魅力向上を図る一方で、経営的な視点による効率的、効果的な収支計画の実施</p> <p>●協議会実施による、館運営、事業の専門性、透明性、公平性の確保</p> <p>●ボランティア登録制度の設置</p> <p>●関係団体との連携による運営</p> <p>●震災・風水害等各種災害を想定した危機管理マニュアルの作成と周知</p> <p>●危機管理マニュアルに沿った、適宜の研修及び訓練の実施</p> <p>●生田緑地及び緑地内施設と連携した災害対策の実施</p> <p>●運営基本計画に基づく事業の執行、及び適正な進行管理</p> <p>●多様な視点を反映し、定量評価を盛り込んだ自己評価の実施</p> <p>●諮問機関等による第三者評価の実施</p> <p>●年報・ホームページ等による評価の周知</p> <p>●館の持続的な成長に向けた、単年度評価結果の次年度事業計画、指標等への反映</p>	<p>①市と指定管理者との円滑な連携による管理業務</p> <p>②収蔵資料の保全を含む災害時の危機管理</p> <p>③川崎市社会教育委員会議青少年科学館専門部会での適切かつ効率的な進行管理</p>	<p>①今年度は第2期指定管理の最終年度の5年目にあたる。国等の通知や関係団体のガイドラインに注視しつつ、教育普及事業等においてコロナ禍でも来館者数の増加に向けて、市と指定管理者が連携し万全の体制で来館者を迎えられるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底に取り組んだ。【P6】</p> <p>②訓練時の課題を受け更新した地震・火災等災害発生時の初動対応マニュアルを踏まえ、館職員、指定管理者、ショップ及びカフェの関係者が参加し、9月に総合防災訓練（火災）、12月には消火・避難訓練を実施した。また、引き続き館内防災点検表により毎月点検・報告を適切に行うとともに、収蔵資料等被災時対応マニュアル等の作成を進めた。</p> <p>③事業計画、中間報告、事業視察、事業報告等のため年4回専門部会を開催し、当館事業の進捗管理を適切に行うとともに、委員への事業報告等が円滑にできるよう、これまでの指導・助言等を踏まえた上で、資料等において的確に報告・情報提供を行い、当館事業の進行管理を行った。また、各委員が会議に出席しやすいよう、来館又はオンラインの選択制とした。【P5】</p>	<p>キャッシュレス対応等新たな利用者サービスの向上のため、更なる連携を強化しながら円滑な館運営を行っていく。</p>	<p>●危機管理に対応した訓練や専門部会の効率的な進行管理を行ったことを評価する。</p> <p>●プラネタリウムの予約がWEBサイトで全席でなくともできるようになるとよいのではないのでしょうか。ウェブサイトで空きがどのくらいあるかわかると便利だと思います。WEB決済も導入できれば、現地での決済の作業も削減されると思いますので現場でのオペレーション減にもつながり負担も減るのではないかと考えます。</p> <p>●オンライン会議での資料共有など、さらにスムーズになるよう希望する。</p> <p>●感染防止対策やオンラインによる部会などの管理体制は評価できる。</p>
		達成度：3		評価：B

(2) 科学館の魅力を高めるサービス展開

中長期的取組	令和4年度主な計画	令和4年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
<p>●各種出版物の発行 ●多様な媒体を活用した広報活動（一部指定管理業務） ●生田緑地全体の広報活動と連動した効果的な情報発信（全部指定管理業務） ●職員の資質の向上（一部指定管理業務） ●館全体の魅力向上に向けた、カフェテリア・ショップのサービス向上（一部指定管理業務） ●展示室以外（実験室や学習室等）のスペースを活用した学習サービスの提供 ●学校団体の利便性に配慮したサービスの提供（全部指定管理業務） ●他施設との連携によるサービスの向上（一部指定管理業務） ●利用手続きにおける利便性の向上（一部指定管理業務） ●バリアフリーの実現とユニバーサルデザインの導入 ●外国人利用者に配慮した案内情報の提供</p>	<p>①広報業務を担う指定管理者と学芸部門の積極的な連携・協力による広報計画 ②当館関係者の連携による魅力を高めるサービス展開 ③障害者・外国人等多様な利用者への配慮</p>	<p>①市内小学生全家庭へ配布した科学館だより、ウェブアクセシビリティに対応し利用者が情報にアクセスし易い構成にしたホームページ、TwitterやFacebookのSNSによる情報発信を積極的に行い、Twitterフォロワー数等を増やすことができた。今年度は各種イベントを実施した開館50周年後であったが、新たな媒体（漫画）との連携を実施したほか、新聞、雑誌、テレビ、ラジオの取材に積極的に協力し、幅広く広報活動を行った。【P38】 また、引き続き、家庭でも科学館の魅力に触れてもらえるよう、「おうちで楽しむデジタル科学館」をコンテンツを更新しつつホームページに掲載した。【P19】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページアクセス数：499,572件（R3 588,649） ・Twitterフォロワー数：4,886件（R3 4,271） ・Facebook投稿リチ数：33,204件（R3 14,776） ・Facebookいいね数：1,381件（R3 1,381） <p>※2月中旬の数値、R3は2月末の数値 ※投稿リチ数：ミニ情報を随時発信するスタイルのため、コンテンツを投稿した時にそのコンテンツを見てくれた人数を指標として採用。</p> <p>②新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底の上、利用者からのご意見等に迅速に対応しつつ、適切な案内及び接客などマンパワーの確保と併せ、ショップ及びカフェにおける商品の種類や品揃えを常にリサーチするなどサービスの向上に資することにより、館全体の魅力向上を図った。</p> <p>③バリアフリー関連設備・用具、表示の保全と研修等による人的支援の充実を図るとともに、英語・中国語・韓国語の館内案内を用意し外国人来館者への利便性向上を図った。</p>	<p>指定管理者の持つノウハウを活用しつつ、より関係者との連携を強化しながら、当館の魅力を積極的に発信していく。</p>	<p>●外国の方の増加に伴う表示等の工夫は評価できる。さらに多様な言語に対応できるものにしていただきたい。 ●川崎市の小中学校の生徒だけでなく、より多くの市民や近隣地区の方にこの科学館を知ってもらう効果的な情報発信を今後心掛けてください。 ●SNSを活用した活動がもう少しできると広報活動の幅が広がり認知の拡大も進むのではないのでしょうか。ページの更新など手間はかかりますが、これからの未来を担う若年層に対して、力を入れているところの紹介などしやすいと思います。市報などにもHPの紹介などを載せてもいいのではないかと考えます。 ●本欄の記入事項の一部（普及出版物、他施設との連携等）は管理業務なのか？ ●SNSに関する理由でこの評価とした。従前の指摘のとおり、内容のワンパターンさ、分野によっては頻度の低さや写真映像の質の低さが目立つ。依然として、緑地内の他施設での運用から学んでいないことが明らかなほか、HPも点検不備が目立つ。 ●インターネットの活用をさらに進めてほしい。 ●広報活動が多岐にわたり活発に行われてきたことを高く評価する。 ●web, facebook, twitterなどSNSを活用して情報発信を積極的に行っていることは評価できる。発信したりアーカイブする情報の特性に合わせてメディアを選択し、ユーザとのタッチポイントのチャンネルを増やすことを検討しても良いと思われる（現在のサービスはどれも連携可能なので、手数を増やすこと無くチャンネルを増やすことは可能だと思われる）。 ●SNSの活用を工夫してさらなる情報発信をひろげて、科学館の魅力をつたえてほしい。今のママ世代はInstagramで情報を得ることが多いらしいのでInstagramでの発信も検討してほしい。</p>
		達成度：3		
				評価：B